

第 22 回 熊野川の総合的な治水対策協議会

～概要版～

1) 河川整備基本方針・河川整備計画

- ・現在においても必要な河川改修を実施中。
- ・河川整備基本方針については、平成23年台風12号洪水、顕在化している気候変動を踏まえ、令和3年10月15日に変更しました。(基本高水のピーク流量を相賀地点において24,000 m³/s、そのうち洪水調節施設等で1,000 m³/sを調節)
- ・河川整備計画については、令和3年12月15日に原案を公表しました。

2) 新宮川水系流域治水プロジェクトの策定

- ・令和2年9月に熊野川流域治水協議会を設立。
- ・新宮川水系のあらゆる関係者が協働し、「新宮川水系流域治水プロジェクト」を令和3年3月に策定。
- ・今後、関係機関の追加とプロジェクトの拡充を実施。

3) 河川改修と治水ダムの治水協力

河川改修の進捗状況

＜直轄区間＞

- ・緊急対策特定区間での整備が令和3年度末に概成予定。
- ・河道掘削において発生した土砂は、三重県と連携し、七里御浜（井田地区海岸）の海岸侵食対策に活用。
- ・これまで新宮市・紀宝町と連携し、津波避難地整備を行い、河道掘削土砂の有効活用と市町の避難施策を実施。
- ・頻発化・激甚化する水害リスクを軽減するため、令和3年度末までの緊急対策特定区間での河道掘削に続いて、今後策定予定の熊野川河川整備計画に基づいた河道掘削を継続して実施する予定。

＜県管理区間＞

- ・平成23年9月洪水で堆積した土砂は引き続き撤去中。
- ・奈良県に関しては、平成28年度に当初予定していた堆積土砂撤去（災害復旧事業分）を完了。引き続き神納川等において、堆積土砂撤去を実施中。
- ・和歌山県・三重県では、平成29年10月に新たに河川整備計画を策定し、両県で支川を含めた約28万m³の河道掘削を平成29年度から実施中。

ダムの治水協力

<電源開発>

- ・平成24年から暫定運用に、令和2年からは治水協定にも基づき管理している（治水協定に基づく事前放流はこれまでの暫定運用と同様であり、その運用を継続）。
- ・今年度は発生した台風のうち、運用基準に到達した台風は無し。

<紀の川ダム統合管理事務所>

- ・試行運用期間9月1日から9月15日はおおむね貯水位を目標水位以下で管理。
- ・試行運用期間9月16日から10月31日は電源開発株式会社、農水省と調整を行ない、濁水状況を把握しながら分水量を調整し貯水位を管理。
- ・令和3年度の試行運用期間においては事前放流実施基準に達するような出水がなかったため、事前放流は実施しなかった。

5) 濁水対策を含むダムの運用・管理

濁水対策

各観測地点の濁度状況

(上野地、五百瀬、重里地点)

- ・これまでと同様、降雨時に高い濁度が確認。
- ・降雨後の濁度の低減後は概ね上野地2～3・五百瀬2～5・重里2～5程度の低濁度。

(風屋ダム貯水池)

- ・令和3年度も昨年に引き続き、濁水早期排出後、上流域からの低濁度の清水を貯留。また、降雨時を除き低濁度層が形成され、風屋ダム取水口（表面取水設備）改造により表層の低濁度層から取水可能。
- ・風屋ダム（取水口）濁度は、平成23年紀伊半島大水害前後で同等の出水規模の場合、流入量ピーク時やその後の減水時に類似の傾向を確認。

(南桧杖地点)

- ・降雨時には高い濁度が確認されたが、降雨後の濁度の低減後は濁度0.5～2程度の低濁度。
- ・これは、災害直後（H24）よりも低い濁度であり、災害前（H19）の濁度の低い時期と同程度の濁度に低減していることが確認。
- ・南桧杖地点で濁度20以上を記録した日数は34日で、平成23年災害後、減少傾向が確認。

<近畿地方整備局>

- ・流域対策および取水設備改良の効果は発現されつつあると分析。
ひきつづき流域対策を継続することにより、災害前と同程度まで回復すると考えられ、モニタリングを継続。

<関係機関>

- ・関係機関は、工事における効果的な濁水対策を共有・実施。また、国および県は市町村が実施する工事について指導。

<電源開発>

- ・継続的なモニタリングから濁水防止フェンス設置の運用、運用ルールの見直し、風屋ダム取水口（表面取水設備）改造、流域対策等の効果が表れていると分析。
- ・これまで実施してきた風屋ダム・二津野ダム濁水防止フェンスの運用、濁水早期排出・清水貯留期間の変更（H30ルール）、左岸支川清水の活用、改造した風屋ダム取水口（表面取水設備）の運用については、今後も継続。
- ・当初令和3（2021）年度末までの予定であった国・県のダム上流の「流域対策」が完了しておらず今後も継続することを踏まえ、今の当社対策の運用（濁度50度以上で発電所運転停止以外）が、今後の流域対策に関わらず有効であることをデータにより検証し、関係者の合意を得ていく。
- ・将来的に濁水長期化軽減・堆砂対策・治水協力・河川環境改善に寄与する「バイパストンネル」を二津野ダムに設置することを計画。バイパストンネル設置に向けた取組みとして、令和4年度からの置土試験開始に向け関係者調整中（関係者と協議中のため当初予定の令和元年度から延伸）。平成30年度から開始した環境モニタリング結果等について学識者の意見を踏まえるとともに関係機関と連携して進めていく。

管理（堆砂）

<電源開発>

- ・令和3年度も引き続き、風屋ダムの貯水池内の堆積土砂（計画125千m³）及び二津野ダムの調整池内の堆積土砂（計画180千m³）を掘削中。掘削土砂は、貯水池・調整池周辺の土捨場等へ搬出中。

<関西電力>

- ・今年度も引き続き、九尾ダムと川迫ダムの堆積土砂を掘削・搬出。
- ・九尾ダムは約12千m³、川迫ダムは約10千m³の堆積土砂を掘削し、水谷土捨場へ搬出する予定。

<紀の川ダム統合管理事務所>

- ・今年度も引き続き、猿谷ダム貯水池内に堆積した土砂約2千m³の掘削を1月以降実施予定。掘削土砂は、和歌山河川国道事務所管内の堤防整備に伴う堤内地の造成（五條市内）に活用。

6) 治山・砂防・河道閉塞対策（濁水の発生源対策の効果を含む）

<林野庁>

- ・保全対象に近接するなど、優先度の高い箇所から復旧に着手。
- ・令和3年度は、十津川地区の14箇所、紀伊田辺地区の4箇所において溪間工、山腹工を計画し実行中。

<奈良県>

- ・平成29年度から、水源地域整備事業により、「十津川村杉清小井谷地区」で新たな土砂の発生防止を図る観点から森林整備等を実施中。

<紀伊山系直轄砂防事業>

- ・大規模崩壊箇所における工事を引き続き実施し、崩壊地内の不安定土砂の流出防止対策を進める。
- ・神納川においては、平成30年4月より土石流や土砂・洪水氾濫の防止を図るため砂防堰堤工事を実施中。また、新たな砂防堰堤を整備するための詳細な調査・設計を行っている。現在は、神納川で2基目の堰堤整備のための用地買収を実施しており、完了次第、工事着手を予定している。
- ・和歌山県高田川流域、三越川流域においても新たに砂防堰堤等を整備するため、現在地元調整を進めている。
- ・今年度、熊野川流域全体において土砂・洪水氾濫対策及び土石流対策を実施していくための施設配置計画の見直しを予定している。
- ・大規模崩壊箇所が隣接する熊野川流域の支川にて流砂観測を行うとともに、本川支川合流点において観測機器による土砂移動監視を行っている。航空レーザ測量成果と上記観測成果を用いて熊野川流域の中長期的な土砂動態把握を進めている。